

# どうとくのち

第3号

2019年春号



対談

## これからの道徳の教科書に 望まれる教材

この機関誌は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

 東京書籍

# CONTENTS

【どうとくのわ】2019年春号



## 巻頭言

「雨のバス停留所で」に込めた思い  
—活用される読み物教材に共通するものとは—

日本体育大学名誉教授 成田國英

対談  
これからの道德の教科書に望まれる教材

宇都宮大学大学院准教授 和井内良樹

東京都世田谷区立池之上小学校 橋本ひろみ

## 小学校

実践事例 第1学年

親切、思いやり

実践事例 第3学年

登場人物や他者との対話を  
役割演技によって深める授業

東京都杉並区立久我山小学校 岡尾あすか

愛媛県今治市立大西小学校 井原賢一

## 中学校

教育現場より

「ステキな生き方」を見つけよう

—生徒とともに考え、語り合う道德の時間の導入—

熊本県熊本市立河内中学校 長谷部智美

教育現場より

指導と評価の一体化を考える

茨城県ひたちなか市立勝田第一中学校 飛田暁美



編集：東京書籍 編集局 道德編集部  
編集協力：株式会社エディット  
デザイン：クオルデザイン(坂本真一郎)  
イラスト：サカモトアキコ

# 「雨のバス停留所で」に込めた思い

—活用される読み物教材に共通するものとは—

教科書『新しいどうとく』4年

(東京書籍)に掲載されている「雨のバスでいりゆう所」を例に、読み物教材の作成に込めた私の思いをたどりながら、道德教育で広く活用される教材について考えてみます。本教材の原作は、文部省刊行の『小学校道德の指導資料とその利用2』

(昭和五十二年三月)に掲載されている「雨のバス停留所で」です。

教材作成当時、私は東京学芸大学附属世田谷小学校に勤務しておりました。教材「手品師」の作者である江橋照雄先生は同校の道德主任として勤務され、私は江橋先生から道德教育について日常的に指導を受けておりました。

その頃、教科調査官の青木孝頼先生は、道德の時間における中心教材を選択する観点として、次の事項を提唱されていました。

◆ねらいとする道德的価値の指導に適しているか(道德的価値が具体的な行為として示されていること)。

◆資料(教材)内容が、子供にとって自己の現実の体験として受け取れること。また、子供の実態(学級や学校の地域的特性)からみて適切であること。

◆教師の経験・能力に照らし、指導しやすいものであること(二〇分以内で活用できること)。

教材作成に当たり、私はこの三つの事項を心に留めました。

中学年の子供たちは、集団活動が活発になる時期であり、約束や社会のきまりを理解し、進んできまりや規則を守ろうとする態度を身につけることが求められます。そして、附属小学校に通学する子供たちは電車やバスを利用する者が多く、雨天の日は傘をさすためバス停留所付近は混雑していました。こうした状況を踏まえ、本教材は子供にとって現実の体験として受け取りやすい題材であると考えたのです。

本教材の検討を行う調査研究協力者会議は、青木先生、同じく教科調査官の井沢純先生出席の下に開催されました。会議では各委員が提出する教材案に対して、登場人物とそ



プロフィール  
日本体育大学名誉教授  
なりた くにひで  
**成田 國英**

東京都立大学卒業、同大学院修士課程修了。横浜市公立学校教諭、東京学芸大学附属学校教諭、東京都渋谷区教育委員会指導主事、文部省教科調査官などを経て日本体育大学教授。主な著書「教育を学ぶ—教育原理ノート—」(東洋館出版社)、「生きる力」を育てる異年齢集団活動の展開(明治図書)など。

の言動、中心発問の設定などについて修正意見が寄せられます。提案者はそれらを踏まえて修正を重ね、教材の作成に努めました。

こうした検討を経て、「雨のバス停留所」は、ねらいを「規則の尊重」とし、登場人物などは女兒と母親・バス停留所で乗車を待つ人々とし、雨降りの状況などを加えていきました。

◆◆◆  
青木先生が提唱された三つの事項は、活用される教材の条件として、どれも大変重要です。国内各地で親しまれることを願っておりました本教材が、道德が教科になった今も、広く活用されていることは大きな喜びです。今後もしこうした教材が増えていくことを願っております。





## 和井内良樹

Yoshiki Wainai

宇部宮大学大学院 教育学研究科 准教授  
東京学芸大学附属小金井小学校、同附属大泉小学校教諭を経て、平成26年10月より宇部宮大学教育学部准教授に着任。平成27年4月より教育学研究科実践高度化専攻（教職大学院）専任。道徳教育、道徳授業実践の研究を行っている。

## 対談

# これからの道徳の教科書に 望まれる教材



## 橋本ひろみ

Hiromi Hashimoto

東京都世田谷区立池之上小学校 指導教諭  
平成28年度文部科学省「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」委員、平成27年度文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」作成協力者などを務める。平成16年度から東京都教育委員会道徳教育推進委員会の委員を務め、平成26年度からは指導教諭という立場で道徳教育の推進を行っている。

これからの道徳科の教科書に期待される教材とは――。

橋本ひろみ先生には指導教諭の立場から、和井内良樹先生には研究者の立場から、それぞれご自身の経験を踏まえたお話を伺いました。

### 子供にとって「おもしろい教材」とは

**編集部** 今、「主体的、対話的で深い学び」が求められています。そのお手伝いができる教材ってどんなものかと、日々考えております。

**橋本** 教材の力は大きいですね。私が六年を受けていた時、子供から「先生、おもしろい話がいいます」と言われました。「子供にとっておもしろい話とおもしろくない話があるのか」と思って聞き返すと、「はいはいはい、って話じゃないやつ」って。子供にも読み終わったあとに「これは難しい問題だ」とか「これは分かる」とかいう感覚があるんです。子供にとっておもしろい教材は、多面的、多角的と言われているもので、子供が自分にはないものを感じたり、まだ漠然としていることを考えたりすることができるといい教材なのだと思います。

**編集部** 「とにかく授業はドラマだよ」「先生がこういくだらうなって思っても、絶対そうはいかなくて。それでもよくて、そのドラマを楽しんで」ということを教科調査官もおっしゃっていました。

**和井内** 「大切なことは何か」「だいたいな授業だから」という発想で授業展開していくと、どうしても堅苦しくなったり、子供が自由にものを言うことを

の仕方があります。

**橋本** 東京書籍四年の「ドッジボール」という教材で、普段あまり口をきかない登君が、言いにくい状況の中で、立ち上がって「いや、アウトだったよ」と言う場面があります。ここについてきいてほしいと思います。「立ち上がるまでにこの子はどんなことを考えていたのかなあ」と。同じく四年の「全校遠足とカワセミ」では、鬼ごっこの中でカワセミを見に行きたいけれど、それはよくないことだ、駄目だと分かっている二人が、木の陰に隠れる。「二人は目も合わせず、長いこと黙ったままでした」というところ。気持ちは何も書いてないけど、子供はこの気まずさとか息苦しさは共感できると思います。すっといきそうなのところだけど、文章のない行間に、子供は自分を重ねると思っているんです。

**編集部** 答えがあらかじめ設定されているような話の中にも葛藤や悩みがちゃんと隠されていて、

恐れてしまったりしてしまいます。子供が「おもしろいな」と感じてくれば、そういう授業を教師はまたやってみたくなる。そんな授業をイメージしながら、教材をどんなものにするか考えていったらよいと思います。

**編集部** 子供はとも正直だと思えます。だから早い子は二年生ぐらいから、「つそだよな」「正解を言わせたいだけでしょ」と感じていて。だからこそ、心に響けば一生懸命考えてくれるんじゃないかと思っています。

**橋本** その意味で、教材が「学年段階に合っているか」は大切です。私もこの年齢になって、ようやく子供がどのように精神的に発達していくのかが分かってきたような気がします。「この学年には、これは難しい」とか、「このぐらいの歳の子は、こういうことで悩むんだらうな」とか。学年が違くと響くものが違ってきます。ですから、先生には、自分が読んで好きな話を教材として選ぶのではなく、「この教材を子供に与えたとき、子供の心は揺れるだらうか」「子供が考えたいこと、子供の悩みや迷いなどに合っているだらうか」と考えて、教材を選んでいただきたいです。子供は大人が思っているほど完成されていないし、価値観も定まっています。昔はそういう子供の発言に出会って、授業がまとまらないのでは、と恐かったのですが、今は喜んで受け止められるようになりました。子供はうんと悩んでしくじって怒られて、少しずつ成長していきます。そこに寄り添った教材が、おもしろい、よい教材なんじゃないかなって思います。

### つまらない話に思えても

**橋本** 私が初めて研究授業をしたとき、使う教材を全部読んで「つまらない話ばかり」と思ったんです。道徳教育をよく分かりもしていないのに、「どれも嫌だから、自分でつくりまします」って。それで自分で教材をつくって授業をしたら、とても難しい。「この授業、全然おもしろくない」と……。授業するまで分からないんです。それからしばらくして、私が「つまらない」と感じたものが、よい教材だったんだって分かってきたんです。私はそれを体験して学びました。読んでおもしろい話が、必ずしもよい教材ではない。子供に考えさせたいことが全部書いてあったり、登場人物の気持ちごと細かく書いてあったりすると、話し合う余地がないのです。教材の見方を先生が学んでいくことも必要だと思えますね。

**和井内** やはり、書かれていない心情を想像して「こんな気持ちだったんじゃないか」と考えられるから深まるっていいことでしょうか。そういう箇所を見つけていくっていい。

**編集部** そういう箇所を見つけていくのは、まさに「教材の見方」に関することですね。具体例を教えてください。

**和井内** 「まどガラスと魚」という有名な教材で授業をしたことがあります。教材提示で場面絵を貼りつけて、そこに「その日の晩、主人公は眠れたかな」と入れたんです。ただそれだけ。その主人公がその夜、どのようなことを心の中で思っていたのか、考える余地をつくっておく。そういうアプローチ



情報量が少ないものは、文字ではなく  
絵で見せた方がよい場合もあります（和井内）

「実はここで悩んでいるんじゃないか」「本当はすつといていないのでは」というところに先生が光を当てることで、子供がぐっと入り込んでいけるんですね。

### 子供には見た目がだいじ

**編集部** 「教科書になっても読み物が多くて、文字ばかり」といったことを耳にしますが、見た目にもいろいろなものがあった方が子供たちはおもしろいのでしょうか。

**和井内** 写真などがメインの教材だったりすると、子供はとても楽しみにします。もちろん読書が好きなきな子はいくらでも文字を読みますが、そうでない子はやはり、教科書をぱっと開いた瞬間、絵とか写

真にまず目がいく。子供が楽しく開けるといっのは、だいたいの要素だと思えます。

**橋本** 教科書になって紙面が大きくなったことで、絵や写真に迫力が出ました。配られた教科書を見て子供がまず興味をもつのは絵と写真です。

**編集部** それは、どの学年でもですか。

**橋本** 学年を問いません。配付したとき、どういふところを見ているんだらうって観察すると、好きな絵や気に入った写真があるページをじっと見て、「おもしろそうだ」と。子供はほんと、絵や写真が好きです。漫画の教材やかわいい挿絵の教材とかを指さして、「これ、いつ頃授業でやりますか？」って聞かれますよ。また、文字が苦手な子、文字を追うのがつらい子は、絵があるとそこから考えようとしてます。ビジュアルな紙面は、教材理解を助けるという面でも必要だと思えます。

**和井内** 内容に入っていくやすいつつのはありますね。いろんな意見を受け止めながら授業をつくるっていくのがだいじというお話がありました。いろいろ出ると「収束できるんだらうか」という不安も、先生にはあります。そういう場合、教材提示や教材理解にすぐ時間がかかるパターンと、教材理解までを導入で行い、時間短縮できた分をその後の話し合いにあてられるパターンとだと、後者の方が、いろんな意見を受け止めて、収束させる時間が取

れるのでやりやすい。

**編集部** 教材を扱う際の工夫はありますか。

**和井内** 教材提示で、例えば紙芝居風にスクリーンで絵を見せるときは、手元の教科書は見せずに紙芝居に集中させます。絵を見ながら先生が劇的に読むと、非常にリアルに子供に迫れるんです。一方、読み聞かせのときは、手元に教科書を置かせます。一応挿絵も見ますが、耳からの情報だけで理解できない子にとっては大変です。目で文字を追うことが苦手な子にとっても難しい。どちらがよいかは、情報量によりますね。情報量が少ないものは、文字ではなく絵で見せた方がよい場合もありますし、「これだけの情報量なら文字でしっかりと読ませたい」という場合はそうする。長い文章で、あらかじめ読む時間を道徳科の授業以外で確保して、子供たちに読ませているのを見たこともあります。

**編集部** 和井内先生のお話を伺うと、漫画という形式は道徳科にフィットしていると感じます。長いものでも短いものでも、両方対応できますし、紙面に載っているのでも、ページを戻って絵を確認することができます。また、吹き出しなどに文字情報もあります。ちょっと大げさかもしれませんが、インクルーシブ教育という観点で、漫画形式の教材は有効なのではないでしょうか。

**橋本** いろんなバリエーションがあるうちの二つとしてはいいですね。きつと、まず漫画から読むんじゃないかな。興味、関心をもって、「道徳、おもしろそう」と思えると思います。

### 読み物以外の教材の可能性

**編集部** 「道徳、おもしろそう」と思える、その入り口としても、漫画など子供の興味を引く教材というのは意義があるんですね。他に「こんな形式の教材がよい」というものがあれば教えてください。

**橋本** 東京都の教育委員会がつくっている教材に、「四コマ漫画形式のものがあります。長い漫画じゃなくて、四コマの中で話を完結させる。

**編集部** 起承転結の「結」までいくわけですね。

**橋本** 四コマ漫画があるんだらう、四コマ写真教材とかもおもしろいかもしれませんね。起承転結の言葉はないけれど、写真で場面が変わって、四コマ写真教材って見たことないですね。

**編集部** おもしろそうですね。写真以外にも、起承転結が言葉では示されていないイラストを見て、ストーリーを考えるとといったような活動も考えられますね。

### 忘れてはいけない「道徳科の特質」

**編集部** そういった、多様な教材を使って、いろんな意見が出る「おもしろい授業」を目指すとき、どんなことに注意が必要でしょうか。

**橋本** 葛藤場面がある教材がよいと聞くことがありますが、「二項対立的な葛藤にとどまらず、二つのことに対して様々な内容項目が出る教材もおもしろいと思います。ただ、指導観の話になります。何を考えさせるのかはしっかりとってないと、広げっぱなしになって「どれでもいいわ」となってしまいます。例えば「善悪の判断」と「友情、信頼」など、内

### 先生の考える正解を言わせるだけの道徳から脱却していくことが、新しい道徳（橋本）

容項目どうしの関連が深いものは一緒に出てきやすいのですが、それでも『善悪の判断』の指導だよね」というのをしっかりとっていることがだいじです。

**和井内** いちばん多い質問は「ねらいとする価値からずれてしまったとき、どうするのですか」というものですね。ねらいとする価値に関わるキーワードが出てこないときとまとめた気がしないというか、終末で「今日はこういう学習をしたんですよ、皆さん」みたいにならないと授業をやった気がしないという声もあります。そういうふうになり過ぎると、「先生は、今日はこういう答えを要求していたんだな」という印象を子供に残してしまい、次の授業で「じゃ、先生、今日は何言えよ」となる。そうなる、授業はスムーズにいくかもしれないですが、おもしろくないですね。

**編集部** そこが難しいのでしょうか。

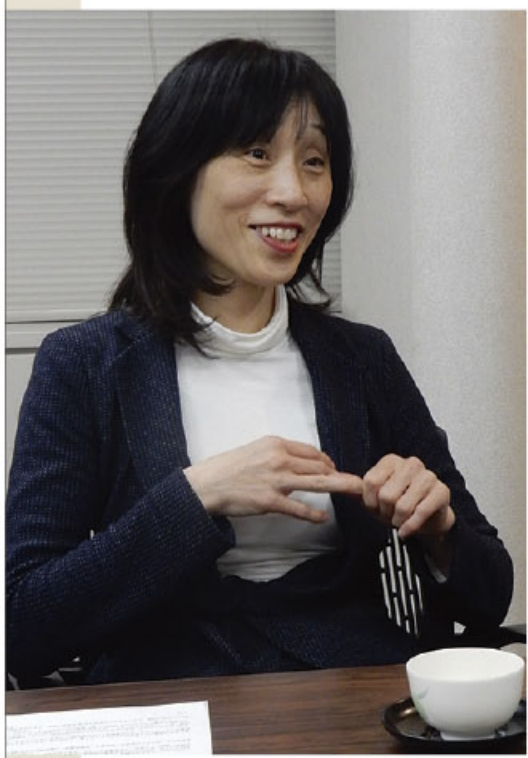
**橋本** 自分も若い頃は、授業がスムーズに進んだ方がよいと思っていました。「正しいことを言っている」と「こつちが期待することを言っている」と。教材に対する自分の解釈、読み取りも影響します。言っていることが強くあって、それを待つだけの授業になるよ」とは、こつち言えぱいいんですけど、こつち言えぱいいんですけど、先生は考える正解を言わせるだけの道徳から

脱却していくことが、新しい道徳なんです。

**編集部** 少し前、先生がたに「新しい指導法でない」と新しい道徳ではない「今まで通りの古い読み物教材は駄目」という雰囲気があったと聞いています。

**橋本** はい。その火消しは大変だとは思いますが、すつと消えていきました。やはり、その教科の本質的なもの、特質は、教材や指導法の新旧と関係ないんです。そこはおさえておくべきだし、そこだと確信しています。多様な考え方が引き出せ、それを自分との関わりで考えられる教材ならよいのです。

**編集部** なるほど。どんな形式でも、道徳科の特質を踏まえた教材を用いれば「主体的、対話的で深い学び」を実現することができるということですね。子供たちがわくわくするような多様な教材で、先生がたによりよい授業をつくっていただければ、頑張っています。本日はありがとうございました。（終）



# 親切、思いやり



東京都杉並区立久我山小学校  
教諭  
おかお  
岡尾 あすか

- 主題名：思いやりの心
- 教材名：ぼくの はな さいたけど  
(東京書籍「あたらしいどうとく」1)
- 内容項目：B 親切、思いやり
- ねらい：身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。

## 1 はじめに

道徳の教科化が発表されてから、本校では、子供たちが道徳を通して様々なことを考えてほしいと思い、研究を進めてまいりました。

本時では、発達段階や児童の実態を踏まえて、「親切、思いやり」の授業で何を考えさせたいのか、また、ねらいを達成するために、どのような発問や学習活動が効果的かを吟味しました。

## 2 主題設定の理由

① **ねらいとする道徳的価値について**  
低学年においては、小学生になって、家族だけではなく、学校や地域の人々、友達などとの関わりが増えていきます。そのため、身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深める機会が必要だと考えています。しかし、発達的特質から他人に親切にできない場面も多々あります。このような、時と場合による親切、思いやりでは、望ましい人間関係をつくり上げていくことは困難であると考えました。以上のことから、私利私欲にとらわれず、相手の立場に立って考え、親切にすることが今後の人間関係を良好にしていくことを知り、実践していけることを目指していきたいと考えています。

② **児童の実態について**  
発達段階から、自分中心の言動も多いのですが、学級活動や生活指導を通して思いやりのある行動をとっている児童を認める活動を行ってきた。その結果、困っている友達を見つけると、見て見ぬふりをするのではなく、言葉をかけた後、手伝ってあげたりする児童も増えてきました。

## 3 考察

③ **教材について**  
こぐまのトトがお母さんへの誕生日プレゼントに花束を贈るために、内緒で花を育てています。しかし、もぐらのモイラが病気のお母さんのために花を摘みに来ていました。謝るモイラを見たトトはかわいそうに思っ花を譲ります。トトはプレゼントが花一本になり、悲しい気持ちになってしましますが、お母さんはトトの親切な気持ちを認めてくれる、という教材です。

## 学習指導過程

学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	指導上の留意点 (●) 評価 (★)
<p><b>1</b> 親切にした経験について話し合う。</p> <p><b>1</b> 人に親切にしてあげていますか。 ・どんなときでもできる。 ・たまにならできる。 ・全然できない。</p>	<p>●「親切」の定義を教師の言葉で確認し、それを踏まえて、現時点での自分を振り返り、意識づけをする。</p>
<p><b>2</b> 「ぼくのはな さいたけど」を読んで話し合う。</p> <p><b>1</b> お母さんへプレゼントする花を育てているとき、トトはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・お母さん、きっと喜んでくれるだろうな。 ・頑張ってるぞ。</p> <p><b>2</b> 今まで育てていた花をモイラが摘んでしまったのを見つけたとき、トトはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・僕が頑張って育てた花なのに。ひどい。 ・お母さんへのプレゼントが台無しだ。</p> <p><b>3</b> モイラの顔が浮かんできたとき、トトはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・お母さんに2つプレゼントしたいけど、どうしよう……。 ・モイラもお母さんに喜んでほしいのは、僕と一緒に思うから、残しておこう。</p>	<p>●話の世界に入り込みやすくするために、パワーポイントを使ってデジタル紙芝居で教材提示を行う。</p> <p>●トトに自我関与して、家族へ思いやりのある行動をしたときの気持ちを考えさせる。相手が喜ぶ顔を想像して行動すると、自分も前向きでよい気持ちになることを考える。</p> <p>●トトに自我関与して、大切に育てていたものが取られてしまったときの気持ちを考える。</p> <p>●トトに自我関与して、自分の都合や気持ちを優先させたいという人間的な弱さもあるが、相手の立場に立って温かい心で人に親切にしようとする気持ちを考える。</p> <p>●書く活動を通して、自分の考えを整理し、自分自身とじっくり向き合う。</p> <p>●ペアやグループで交流し、多面的・多角的に考える場を設ける。</p> <p>★状況や私利私欲にとらわれず、相手の立場に立って考え、親切にしようとする気持ちについて考えている。</p>
<p><b>3</b> 生活を振り返って考える。</p> <p><b>1</b> 我慢しても相手のためにしてよかったことはありますか。また、そのとき、どんな気持ちになりましたか。 ・運動会のダンスが分からなくて困っている友達に、教えてあげたら、「ありがとう。」と喜んでくれてよかった。 ・自分も疲れていたけど、電車でお年寄りに席を譲ってあげたら、「ありがとう。」と言われて、心が温かくなった。</p>	<p>●自分の振り返りがなかなかできない児童には、相手に「ありがとう。」と言われたときや、喜んでもらったとき、どんな気持ちになったかを聞く。</p> <p>●書く活動を通して、自分の考えを整理し、自分自身とじっくり向き合う。</p> <p>★どんなときでも相手の立場に立って考え、親切にすることの気持ちよさについて、今までの自分の関わりから考えている。</p>
<p><b>4</b> 教師の話聞く。</p>	<p>●相手の立場に立って、親切にできた教師の体験談を話し、余韻をもって終わる。</p>



## 実践ポイント

帝京大学大学院教授  
赤堀 博行

### 明確な指導観に基づく一貫性のある授業構想

岡尾先生は、「親切、思いやり」の指導に際して、日頃の道徳教育の結果から、児童に親切にすることの良さや温かさを感じさせたいという願いをもちました。そして、この視点で教材活用を工夫し、中心発問では児童をトトに自我関与させて親切の良さを考えさせました。さらに、児童が自己の生き方についての考えを深めるために自分自身を振り返る問いを行っています。この問いも、児童が相手のためにしてよかったこととして、親切にすることの良さや温かさを感じていく問いになっています。一貫性のある指導は何よりも重要です。

導入

展開

終末

# 登場人物や他者との対話を 役割演技によって深める授業



愛媛県今治市立大西小学校  
教諭  
井原 賢一

- 主題名… 相手を理解する心
- 教材名… たまちゃん、大すき  
(東京書籍「新しいどうとく 3」)
- 内容項目… B 相互理解、寛容
- ねらい… お互いに理解し合って、自分と異なる意見も大切にしようとする態度を養う。

## 1 はじめに

指導要領の中学年に追加された「相互理解、寛容」は、いじめ問題や人間関係の希薄化を憂う、今日的課題解決への足掛かりとして重要な内容項目です。

「たまちゃん、大すき」は、長年親しまれた国民的テレビ番組が基であり、まる子とたまちゃんに揺るがない友情信頼関係が成立していることは周知の事実です。この意思疎通があつてこそその寛容のすばらしさを訴えた教材です。以前は「友情、信頼」で扱われることが多く、学習指導要領の改訂後「相互理解、寛容」で扱われるようになりました。そのため、指導観を明確にしておかな

ければ、ねらいとずれた授業に終始する恐れがあります。

今回は、相互に自分の考えを伝え合う「対話」に注目し、登場人物二人と心で対話して気持ちを考え、児童どうしの対話から相手を理解し、分かり合える快さを味わえるように授業を構成しました。

## 2 主題設定の理由

### ① ねらいとする道徳的価値について

異なる意見をもつ者どうしが望ましい人間関係を築くには、相手の立場や考えを尊重しなければなりません。この時期の児童には、対話によって自分の考えを伝えるときにも、その背景についても考え、相手を受け入れる寛容な心が必要です。

### ② 児童の実態について

学級会や各教科のグループ学習で機会を捉え、自分の考えを主張するだけでなく、友達と折り合いをつけながら対話することの大切さを指導してきました。しかし、自分の理屈で他者を動かそうとする児童もいます。そこで、さらに相互理解の良さについても考えを深める指導が必要だと考えました。

### ③ 教材について

自分の身勝手な言動からたまちゃんやけんかになつたまる子ですが、たまちゃんの事情や思いを冷静に考えると、自分にも非があることに気づきます。仲直りができるまでのそれぞれの葛藤が描かれ、最後には、許し合い、感涙にむせぶ二人の姿が描写されています。

登場人物に自我関与させ、二人の意見や気持ちを自分事として考えさせます。互いの思いのずれを受け入れ、対話によって解決した場面の役割演技を通して、苦悩が消え、互いに理解し合える関係を取り戻した喜びをともに追体験させます。

## 3 考察

今回は、ねらいを達成するため、指導の工夫として、中心発問で役割演技を取り入れました。それを生かすために、展開前段で十分に時間を設け、お互いの心情を多面的に考えさせました。その結果、「相手のことを分かって許し合えるっていいなと思いました。」と、振り返る児童が多かったです。

## 学習指導過程

学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	指導上の留意点 (●) 評価 (★)
<p><b>1</b> 約束を破られた経験を出し合う。</p> <p><b>1</b> 約束を破られたとき、どんな気持ちになりましたか。 ・腹が立つ。裏切られた。絶対に許さない。 ・相手に何か事情があったのかもしれない。</p>	<p>● 事前にとったアンケートの結果を掲示する。</p> <p>● 今までの自分を振り返り、友達に約束を破られた経験を出し合って、本時の学習内容に意識を向けさせる。</p>
<p><b>2</b> 「たまちゃん、大すき」を読んで話し合う。</p> <p><b>1</b> 次の日、たまちゃんが行くことができなかった事情を話して先に謝ったのに、まる子は何が許せなかったのでしょうか。 ・寒い中、一人で夕方までずっと待っていたのに、来てくれなかったこと。 ・約束をしていたのに、来てくれなかったこと。 ・信じていたのに、裏切られたこと。 ・今日ではなく明日理めに行こうと言われたこと。</p> <p><b>2</b> お鍋の火を見ながら、たまちゃんの置かれていた状況に気づいてあげられたとき、まる子は何を考えたのでしょうか。 ・たまちゃんもお母さんに頼まれて留守番をしなければいけなかったのだ。私と同じだ。 ・タイムカプセルを捨てたと言ったら、悲しそうだった。 ・タイムカプセルを捨てたこと、謝らないといけない。</p> <p><b>3</b> お互いに謝って涙を流した二人は、その後、どんな気持ちを伝え合ったのでしょうか。 (まる子) ・たまちゃんのことを考えて、許してあげられなくてごめん。 ・いつもの仲よしに戻ることができてよかった。 (たまちゃん) ・昨日は、約束を守ることができなくてごめんね。 ・許してくれてありがとう。</p>	<p>● 場面絵をテレビに映して教材提示することで、なじみのあるテレビ番組と同じ世界に浸らせ、児童が自分との関わりで考えやすくする。</p> <p>● 相手の立場を理解しようとしなくて、寛容な心を失い、自分本位に相手を責めるときを考えを多面的に出させる。また、「たまちゃんの置かれていた状況をまる子は考えていないのか。」という補助発問で、人間理解を深めさせる。</p> <p>● 相手の状況を考えずに責めてしまったことに気づいたまる子に自我関与させ、価値理解を深める。</p> <p>● 《役割演技》見ている児童には、目的をもって役割演技を見るために、事前に、自分の考えと比べたり、演じる様子から新たに考えた意見や感想を聞いたりすることを伝えておく。</p> <p>● 価値理解を深めるために、理解し合えた二人の感じ方や考え方を多面的・多角的に出し合わせる。</p> <p>★ 相互理解、寛容について、自分なりの考えをもてている。</p>
<p><b>3</b> 今までの自分を振り返る。</p> <p><b>1</b> 相手の意見や考えを分かってあげることが大切だと思ったことはありますか。</p>	<p>● 友達関係以外の人間関係も想起することを伝える。</p> <p>● 振り返りの時間を十分確保するために、ワークシートを活用する。</p>
<p><b>4</b> 教師の説話を聞く。</p>	<p>● 些細なことからけんかになったが、互いに話し合い、寛容の心をもって許し合えた経験を話す。</p>

## 実践のこぼれ

帝京大学大学院教授  
赤堀博行

### 道徳的行為に関する 体験的な学びとしての 役割演技

井原先生の実践は、児童が互いに理解し合って自分と異なる意見を大切にすること、良さについての考えを深めることを意図して授業を展開しています。中心発問も児童が登場人物に自我関与して考えられるように工夫しています。そして、さらに自我関与を深めるために役割演技を活用しています。役割演技は即興性を重視する表現活動で、児童が自分と向き合って考えることを促します。また、役割演技の指導に当たって、演者の児童だけでなく、観衆の児童に対しても適切な配慮をしているところは大きいと参考にしたものです。

導入

展開

終末

# 「ステキな生き方」を見つけよう

## これから出会う生徒との 道徳の時間の授業開き

年度初めの道徳の時間には、オリエンテーションを行います。ここで、生徒には「道徳の時間の目標」についての話をします。といっても、学習指導要領解説を読み上げ、説明するということではありません。生徒の実態に合わせて、「人としてよりよく生きるために大切な心をたくさん育て、『ステキな生き方』を見つけよう」というような話をします。その後、道徳の22の内容項目の概要を、「育てたい心」と称して、一つ一つ話していきます。例えば、「B 相互理解、寛容」で育てたい心については、「相互理解・他の人との関わりや話し合いの中で、自分の考えや意見を伝え、相手のものの見方や考え方の個性を大切にす

る心」、「寛容…他者のよい面を積極的に認め、その姿から謙虚に学び、自分の個性を伸ばしていくこととする心」のように、学習指導要領解説の内容を踏まえた上で、生徒に分かりやすい言葉に置き換えて説明します。それから、生徒たちが、一

## 道徳の時間における導入

導入において私が大切にしていることは、生徒一人一人が、ねらいとする道徳的価値やそれに関する事象について自分の経験を想起し、自分との関わりで考えることができるようにすることです。また、生徒の興味や関心を高めることも意識しています。それでは、私が実践した導入段階の工夫を次のページで三点紹介したいと思います。



私は、導入の段階で、本時のねらいとする道徳的価値と生徒の生活経験をつなぎ、それをさらに、教材につながる役割を果たしたいと考えています。本時で考えさせたい道徳的な問題について、生徒一人一人が、「自分はどうかだったかな?」「自分の場合でいうと……」と、自分に置き換え、自分事として捉えさせること。自分との関わりで見つけることによって、生徒が道徳的な問題について考える意図や必要性を感じさせること。それが、一時間の授業を通して課題に対する答えを導き出すための興味関心の高まりにつながると考えているからです。

本学級の生徒一人一人が、一時間の道徳の時間を通して、自分にとっての「ステキな生き方」を見つけたいなと思っていて道徳の授業を行っている。その思いを大切に、今後も道徳の時間、一時間一時間を、生徒とともに考え、語り合ってきたと思います。

## 終わりに



熊本県熊本市立河内中学校  
道徳教育推進教師  
教諭  
はせべ ともみ  
長谷部 智美

## 導入の工夫



### 導入例 1 生徒の日常生活の中から問題提起をする 「B 思いやり、感謝」の指導の導入

本学級には、給食委員会の仕事として、給食台や級友の机を毎日欠かさず拭いている生徒がいます。その姿を撮った写真を提示し、「Aさんは、どうして毎日台拭きをしているの?」と全体に問い掛けると、「仕事だから!」と生徒たちは口々に答えました。「では、Aさんはどんな気持ちでその仕事をしているのだろうか?」と問い返すと、「うーん……。」と考え込んでしまいました。そこでAさんに聞くと、「給食台や机をきれいにすることで、みんなに気持ちよく給食を食べてほしいなあと考えています。」と答えました。「みんなのことを考えながら仕事をしていたんだね。Aさんがそんな風に考えていたこと、知ってた?」と生徒たちに問いかけると、首を大きく横に振りました。台拭きは給食委員として当然の仕事と思っていた生徒たち。しかし、Aさんの言葉から、その行為の裏に、「みんなのことを思いやる気持ち」があったことに気づいたのです。

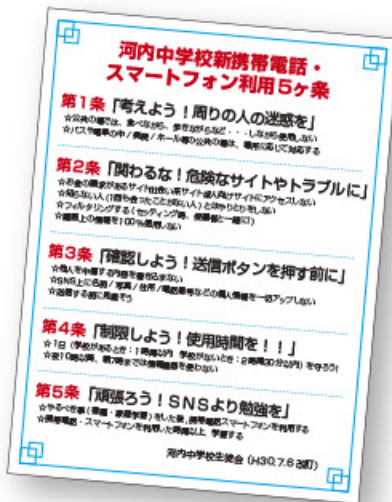
このことを踏まえ、生徒一人一人に本時のめあてを提示してもらいました。導入で生徒の日常の学校生活を想起させ、問題提起することで、どんな心について見つめるのか、ねらいとする道徳的価値を具体化し、1時間の道徳授業の見通しをもたせるのです。

### 導入例 2 事前アンケートの結果を提示する 「C 遵法精神、公德心」の指導の導入

本校には、「携帯電話・スマートフォン利用5ヶ条」という情報機器使用のルールがあります。しかし、本学級では、このルールが守れていないのが現状です。そこで、一人一人の自覚化を図るために、「学校のきまりには、どのようなものが、何のためにあるのか。」「守ることができているか。」というアンケートを行いました。すると、約9割の生徒が「学校のルールを守れていない。」と記入していました。

導入では、このアンケートに基づき「『利用5ヶ条』を守れていない。」と答えた生徒の割合を表した円グラフを提示し、「守れていない人が多いなら、このきまりはいらぬのでは?」と聞くと、多くの生徒が「必要です。」と答えました。「では、守れてない現状はどうして?」と聞くと、困った表情になる生徒たち。これを本時のねらいとしました。

事前アンケートを用いることで、生徒は日頃意識していない自分の思いと行動との矛盾点や疑問点に気づきます。そして、ねらいとする道徳的価値と生徒の生活経験とを結びつけることができます。



### 導入例 3 職場体験活動の経験を活用する 「C 勤労」の指導の導入

この授業の実施前に、生徒たちは職場体験活動を行っています。本校区はみかんや海苔の生産がさかんで、家業を手伝う生徒も多くいますが、そのほかの生徒には、「働く」という経験がありません。そのため、この体験活動が、「働く」という共通体験となりました。

本時の導入では、「職場体験活動をしているとき、どのような気持ちで、どのようなことを考えていましたか。」と問いかけました。すると、「ずっと立ちっぱなしで足が疲れました。」「園児と遊び疲れました。」など、「働く」ことに対する難しさや大変さについての感想が出ました。それだけでなく、「でも」と、言葉が続き、「ありがとうと言ってもらえて嬉しかったです。」「将来就きたい仕事を経験できて勉強になりました。」と、やりがいや喜びなどの価値理解を見取ることもできました。

この導入で大切にしたいことは、生徒が、働いているときの気持ちを振り返りながら、登場人物と自分を重ねて教材の読み聞かせを聞くことです。導入段階で、「働く自分」を想起させ、本時で考えたかった「働くことの意味」を生徒の意識の中で焦点化し、展開段階につなげました。

# 指導と評価の一体化を考える

## 評価するということ

道徳科の評価に対し、不安の声をよく耳にします。しかし、そのように不安に思っている先生方も、専門教科について、日々の授業の中で生徒の学習状況を見取り、生徒の実態と学習のねらいに即した授業を展開し、その達成状況を評価し、授業改善に努めていると思います。

道徳科においても、評価するという行為そのものについては、基本的には同じなのではないかと捉えています。教科化を前に、評価の文章表現の例などが先行して取り上げられている傾向がありますが、大切なことはねらいを明確にした授業を行うことです。教材研究をしっかりと行い、目指す生徒の姿をイメージし、生徒に何を考えさせ、何に気づかせたいのかという「教師の明確な指導観」をもつことが不可欠です。評価するためだけの授業にならないことが大切です。授業においては、生徒の学ぶ姿を、しっかりと見取ることが適切な評価につながるでしょう。

気になる指導要録や通知表の記載についてです

いくことになり。個人内評価は、生徒一人一人の学習状況を把握して、成長の様子を見守り、良さを認め励ますことで、生徒が自分自身を見つめ理解して、よりよく生きようとする気持ちをもてる評価を目指していく必要があります。さらに、生徒だけではなく保護者に対しても、それを伝えていくという意識が大切です。つまり、評価は生徒や保護者に伝わる内容でなければなりません。ということです。

教師による生徒の学習状況の把握、生徒自身の自己評価、これらはどちらも大切です。学習状況の把握については、ポートフォリオ評価やエピソード評価など、既にいくつも方法が挙げられています。生徒の自己評価については、アンケートや授業の終末に行う振り返りなどになります。

また、忘れてはいけないことは、評価は教師が生徒に対してだけ行うものではないということです。どの教科も同じですが、授業や教師自身を振り返るものでもありと捉えています。生徒の姿を見つめながら、どのように指導していくべきかを見つめたり、生徒を評価することで、教師としての自分自身を見つめたりするものかもしれません。道徳の授業を組み立てる教師自身の人間性や道徳性が問われているように感じます。生徒の目指すべき姿を目標に、日々成長し続ける姿をしっかりと見取っていくことが大切だと思えます。「考え、議論する道徳」を、教師と生徒が一緒につくり上げていくことが重要であり、それが評価へとつながるものだと考えています。

## 授業実践から(中学3年生)

主題名『遵法精神』(C 遵法精神, 公德心) 教材名「二通の手紙」



### ■生徒の実態から予想される反応

- ・元さんが辞めるのはかわいそう。
- ・元さんはよいことをした。
- ・時には規則を破っても仕方がない。

※ねらいとする『遵法精神』ではなく、「思いやり」や規則を守るべきかどうかの「葛藤」になってしまうのではないかと想定。

### ■発問について

#### ◎ねらいとする価値を焦点化する発問の工夫

「もしも事故に遭っていたら、どんな手紙が届いたでしょうか。」そして、「幸い二人は無事でしたが、結果さえよければそれでよかったのでしょうか。」とすることで、情に流された甘い判断のために大騒ぎになってしまったことを押さえられるようにすれば、考える内容項目を『遵法精神』と明確に理解できるようになるのではないかと。

#### ◎話し合いの流れに応じた発問の工夫

- ・他に選択肢はなかったのでしょうか。
- ・安全に配慮すれば、入園を認めてもよかったのでしょうか。
- ・佐々木さんは、元さんから何を学んだのでしょうか。
- ・佐々木さんの「駄目だと言ったら駄目だ。」という厳しさはどのような思いからだったのでしょうか。

### ■生徒の考え (授業の実際)

#### ◎規則やきまりについて深く考えることができた。

- ・自分の選択によって起こり得ることの可能性をしっかりと考えることが大切だ。
- ・きまりは守らなければならないが、子供の気持ちを考えるとすごく難しいと思った。
- ・法やきまりは、よく考えてつくられたものだと思う。よかれと思ったことでも、きまりを破ってしまうと事故が起こることあることを考えなければならない。
- ・そもそも法やきまりは、人を守るためのもの。だから、守るべきだ。

#### ◎様々な立場を想定して物事を考えることができた。

- (姉弟, 姉弟の母, 佐々木さん, 山田さん, 動物園で働く上司)
- ・もしも事故に遭っていたとしたら、それを知った世の中の人には、SNSなどで元さんだけでなく、動物園に対しても厳しい言葉を投げかけていたのではないかと。

きまりの遵守と姉弟を思う気持ちのはざまに揺れ動く元さんの心情を受け止めつつ、自分事として考え、道徳的価値を理解し実現しようとする自分と、分かっているもなかなかできそうもない自分との葛藤を通して、主体的に法やきまりの意義を獲得しているものと考えます。

### 「二通の手紙」での評価(例)

「二通の手紙」では、きまりを守ることと思いやりとの道徳的価値の対立が生じる場面において、きまりの意義について考えるだけでなく、きまりの中に存在する思いやりについてもより深く考えました。

「二通の手紙」では、自分の思いを重ねながら、何を根拠に、どのように判断するかについて友達と意見交流をし、法やきまりを守ることの大切さについて、様々な立場に立つことで、違った捉え方に気づきました。

法やきまりを守ることの意義について、様々な立場や状況に応じた感じ方があることを実感し、社会の中で物事をどのように捉え、どのように行動すべきかの重要性を知り、よりよい社会をつくってきたいという思いをもちました。

## まずは 授業づくり

授業のねらいを明確にすることで、より内容項目に焦点化した学習活動が展開され、評価の視点が明らかになると考えています。「何を」「どのように」評価するかをイメージできなければ、曖昧な評価になってしまうからです。教師が教材研究をしっかりと行い、生徒の実態を踏まえて何を指導するのかを明らかにすることが大切になるでしょう。

授業で指導しなければならないことは、道徳科の目標から四つあると捉えています。

## 次は 評価の在り方

- 道徳科の評価は、「個々の内容項目ではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」
- 「生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと」と言われています。「大きくくり」には、時間的なまとまりと内容的なまとまりがあると捉えています。
- 時間的なまとまりでは、一単位時間だけではなく、学期や年間といった複数回の授業全体を通して見取ることになります。内容的なまとまりでは、内容項目ごとではなく、A・B・C・Dの視点というまとまりや関連性、発展性にも注目して



茨城県ひたちなか市立勝田第一中学校  
道徳主任・道徳教育推進教師  
教諭  
とびた おけみ  
飛田 曉美





本社 〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1 Tel : 03-5390-7354(道徳編集部) Fax : 03-5390-6014  
支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722  
大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084  
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/> 教育資料データベース 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>